

日本僑報

題字：人民日報前社長邵華澤先生

総第 74号 発行 / 日本僑報社 定価 / 300 円
〒 333-0866 川口市芝 5-6-6 TEL048-432-7332 FAX432-7335
http://duan.jp duan@duan.jp 編集長/段躍中

より刊行された。詳細は二面



徳東京入 坂中英
国管理局 長の著書
『外国人
に夢を
与え
る社会
を作る
ー縮小
してゆ
く日本
の外国
人政策
』は、

東京入国管理局長
坂中英徳氏の著書刊行

東京大学大学院博士課程留学生祁景滢さんの著書刊行

中国のインターネットにおける対日言論分析

田中明彦・東京大学教授推薦



東京大学
博士課程留
学生 祁景
さんが書
いた『中国
のインテ
ルネットに
おける対
日言論分
析』は、
7月に日
本僑報社
より刊行
された。

この本の主な内容は以下の通りである。日本では、「中国のインターネットでは反日言論が激しい」、「中国政府は反日感情を煽っている」など、日本攻撃の罵詈雑言が、中国インターネットの対日言論の全体像として紹介される。それらの論調は、問題を解決するどころか、対日言論の緊張関係をより一層白熱化させるばかりである。

現代の日中関係について、インターネットに現れる対日世論が重要だと言われる。最も先鋭な対日批判がインターネットで繰り広げられているとも言われる。しかし、その実態を冷静に分析するとどうなるのか。中国の公式見解とどこが同じでどこが違うのか。中国のインターネット対日世論の構図を初めて体系的に分析したのが本書である。現代の日中関係を理解したい者にとって必読書であろう。
(東京大学東洋文化研究所教授 田中明彦)

インターネットにおける辛辣な日本批判は対日言論の表層にすぎず、その本質は単純な反日大合唱ではないということを、本書は指摘したうえ、水掛け論に終わらせないため、いわば理論と実証のキャッチボールを通じて、中国のインターネット対日言論の真相を突き止めることを狙った。さらに、そこに反映されている中国政府や日本社会の有り様を窺える考えている。詳しくは次号に続く。



『尖閣列島・釣魚島問題をどう見るか』刊行

横浜国立大学村田忠禧教授が書いた日中両国語の著書『尖閣列島・釣魚島問題をどう見るか』試される二十一世紀に生きるわれわれの英知』は、6月に日本僑報社より刊行された。
ISBN 4-931490-87-5 本体 1300 円 + 税



王敏監修 田中須磨子訳
『無言の愛』刊行
中国人作家高縷原著、田中須磨子訳、法政大学教授王敏監修したルボ集『無言の愛』は、6月に日本僑報社より刊行された。この本は、中国の数々の波乱を乗り越えた聴覚障害児と家族の軌跡を紹介した一冊である。本体一八〇〇円 + 税